

平成22年に宮崎県で発生した口蹄疫について

口蹄疫とは

主に偶蹄類の動物（ウシ・ブタなど）に感染するウイルス性伝染病で、大量のよだれの他に、口やひづめ（蹄）の周りなど皮膚の柔らかい部分に水ぶくれなどができます。非常に感染力が強く、一度発生すると畜産農家の経営に大きな影響を与えます。

口蹄疫の発生

平成22年4月20日に発生が確認され、児湯郡を中心に、県内5市6町に拡大しました。平成22年8月27日の終息宣言までにまん延防止のための殺処分等により、29万7,808頭（当時の県内の牛・豚飼養頭数の約1/4）にも及ぶ家畜が犠牲となりました。

口蹄疫による被害は畜産関連のみならず、観光や商工業などあらゆる産業に広がり、県内経済への影響は、約2,350億円（平成22年8月試算）に及びました。



【症状（よだれ）】



【防疫作業の様子】



【埋却の様子】



【症状（鼻端の水泡とびらん）】



【農場内の清掃・消毒の様子】



【車両消毒の様子】

全国からの支援

○義援金（平成22年5月14日から10月31日）

総額：35億8,426万7,044円 件数：35,670件

○法人等からの寄附金（平成24年7月31日まで）

総額：2億9,368万5,213円 件数：475件

○ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）（平成24年3月31日まで）

総額：1億6,510万7,520円 件数：4,544件

○口蹄疫復興宝くじ収益金

宮崎県配分額：8億605万7,914円

○その他

全国から激励の手紙や寄せ書き、千羽鶴などが多数送られてきました。

また、多くの物資や資材なども提供いただきました。



復興から新たな成長へ

○史上初！全国和牛能力共進会で3大会連続内閣総理大臣賞受賞！

平成29年に開催された和牛のオリンピックと言われる全国和牛能力共進会で見事に史上初の3大会連続となる内閣総理大臣賞を受賞し、全国に向け、口蹄疫からの復興を発信しました。



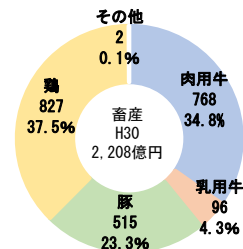
○本県畜産物の輸出にも取り組んでいます！

県産牛肉、県産豚肉の輸出拡大と国内販売力の強化を目的として、EUへの輸出基準を満たした株式会社ミヤチク都農工場が整備され、令和元年8月29日、EU向けに「宮崎牛」が初出荷されました。



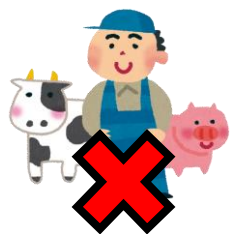
○産出額が伸びました！

本県の畜産産出額は、平成30年には2,208億円となり、口蹄疫発生前と比べて、約1.3倍に伸びました。

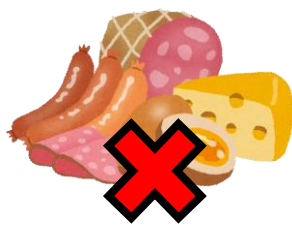


口蹄疫終息後、「忘れない そして前へ」を合言葉に、生産者をはじめ関係者一体となって、防疫体制の強化と畜産の新生に取り組んできました。

家畜伝染病を宮崎県に持ち込まないためのお願い



畜産農場へは
立ち入らない！



海外から肉製品などを
国内に持ち込まない！



靴底消毒に
ご協力を！

口蹄疫メモリアルセンター

口蹄疫で犠牲となった29万7,808頭の家畜を追悼するとともに、あのつらく悲しい経験、そして全国の皆様から頂いた支援に対する感謝の気持ちを風化させず、語り継ぐ拠点となるように、口蹄疫に関する情報発信や資料等の保存展示を行っています。

口蹄疫を経験した「語り部」から当時の思いなどを聞くことができますので、詳細はお問い合わせください。



- 所在地 宮崎県高鍋町大字持田5732
宮崎県農業科学公園 農業科学館2階
- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- 休館日 月曜日（ただし祝日の場合は翌日）
年末年始（12月29日～1月3日）
- 問い合わせ TEL 0983-22-4000

